

## 福井市との包括連携事業

## かえりたくなるまち促進事業

仁愛女子短期大学 准教授 澤崎 敏文

福井市では、福井県移住定住促進機構などと連携して、東京や大阪にて移住・定住の相談会に出展するなど、移住・定住の後押しを強化しています。そのためには、U・Iターンに関心がある相談者に福井市の住みよさを効果的にPRする必要があります。そこで、このような広報・イメージアップ戦略を検討するうえで、今どきの若者、学生目線での「福井の住みよさ・暮らしやすさ」を本学の学生たちと考え、最終的には、移住・定住促進PR事業用パンフレットという形で情報発信していくというのがこの授業の目的です。

本事業における本学の役割は2つあります。

### 1. 基本コンセプトの設計

まず一つ目が、パンフレットの基本コンセプトとなるアイデアを学生たちで考えることです。10月13日、14日に生活情報専攻1回生対象の「コミュニケーションI」の授業にて、福井市の担当者に来ていただき、移住・定住促進施策についての講義を受けました。

この後、以下の手順で5週に渡ってワークショップを実施しました。

#### ○第1回：全国のUターン・Iターン施策を知る

福井県以外の移住・定住促進事業の情報を探して、自分が魅力的に感じた街、そして、なぜそう感じたのかを考えました。

#### ○第2回：福井市をPRするために必要なことを考える

ワールドカフェ方式のワークショップを実施。県外の人々の目線で福井が魅力的だと感じるポイントを議論しました。

#### ○第3回：パンフレットとして必要なコンセプト

パンフレットとして何を伝えるか、どう伝えるかをまとめました。

#### ○第4回：パンフレットの中身を考える

これまでの議論で絞り込んだコンセプトを中心にその中

身を考えます。グループに分かれて話し合った後で、個人個人で福井市を紹介する内容を集約しました。

#### ○第5回：パンフレットの構成を考える

これまでの議論から構成を考え、それらにふさわしい「言葉」やストーリーを組立てます。各自がパンフレットのサンプルを作ってみました。

最後に、パンフレットの方向性やコンセプトについて発表を行いました。最終的に出てきたのが、将来福井に住んでもらえるかもしれない「未来の福井人へ向けた手紙」というコンセプトです。ネットや携帯で簡単に情報が手に入り、メール等で気軽に情報交換ができる今だからこそ、大事なメッセージは手紙として伝えよう、というコンセプトです。

### 2. パンフレットのデザイン、作成

次に、2つ目の役割となるデザイン・パンフの作成です。生活情報専攻で議論されたPR案をベースに、必要な項目等を精査し、生活環境専攻の西畑先生を中心に広報用パンフレットのデザインを作成し、最終的なパンフレットへと仕上げました。



学生にとっては、自分たちが考えたアイデアが現実のパンフレットとして形になるだけでなく、このような長い議論を

踏まえて一つのプロジェクトが進んでいくということを知り、いい機会になりました。また、現実の地域の課題に真剣に取り組むことで、今まで知らなかった地域の魅力を再発見できたのではないかと考えます。今回のプロジェクトを通して、学生の大きな成長を感じました。